

2026年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任																											
公民	政治・経済	3	2年次	二瓶 賢一																											
選択するときの条件																															
使用教科書	実教出版 詳述政治・経済	使用副教材	教科書準拠演習ノート、政治・経済資料2026(とうほう)																												
科目の目標			道徳教育のねらい																												
社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成する。																												
学習活動内容		育てたい6つの力(資質・能力)																													
		1 主体的学習力	2 基礎力	3 思考・分析力	4 発信・表現力	5 自他認知・協働力	6 計画実行力																								
第1部 現代日本における政治・経済の諸課題																															
1	現代日本の政治	○	◎	○	○	○																									
2	現代日本の経済	○	◎	○	○	○																									
3	現代日本における諸課題の探究	○	◎	◎	◎	◎	◎																								
第2部 グローバル化する国際社会の諸課題																															
1	現代の国際政治	○	◎	○	○	○																									
2	現代の国際経済	○	◎	○	○	○																									
3	国際社会の諸課題の探究	○	○	◎	◎	◎	◎																								
授業での取組		○	◎	○	◎	◎	○																								
課題への取組		◎	○	◎	◎		◎																								
定期考査		○	◎	◎			◎																								
評価の観点		知識・技能 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。		思考・判断・表現 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。		主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。																									
評価の方法		①観点別評価 各評価の観点について以下の点数を配分し、それぞれの達成度合い(%)をABCで評価する。				<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>70%～100%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>45%～69%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>0%～44%</td> </tr> </table>		A	70%～100%	B	45%～69%	C	0%～44%																		
A	70%～100%																														
B	45%～69%																														
C	0%～44%																														
		<table border="1"> <tr> <td>観点</td> <td>場面</td> <td>授業での取組</td> <td>課題への取組</td> <td>定期考査</td> <td>各観点の配点</td> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td></td> <td>10</td> <td>20</td> <td>70</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>思考・判断・表現</td> <td></td> <td>10</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> <td></td> <td>10</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>40</td> </tr> </table>				観点	場面	授業での取組	課題への取組	定期考査	各観点の配点	知識・技能		10	20	70	100	思考・判断・表現		10	20	30	60	主体的に学習に取り組む態度		10	20	10	40		
観点	場面	授業での取組	課題への取組	定期考査	各観点の配点																										
知識・技能		10	20	70	100																										
思考・判断・表現		10	20	30	60																										
主体的に学習に取り組む態度		10	20	10	40																										
		②100段階評価(定期考査毎)および5段階評定(学年末) 上の3観点において、各資料をもとに総合的に評価し、それぞれの達成度合い(%)により、5段階の評定をする。				<table border="1"> <tr> <td>十分満足、特に高い</td> <td>5</td> <td>80～100</td> </tr> <tr> <td>十分満足</td> <td>4</td> <td>65～79</td> </tr> <tr> <td>おおむね満足</td> <td>3</td> <td>45～64</td> </tr> <tr> <td>努力を要する</td> <td>2</td> <td>30～44</td> </tr> <tr> <td>努力を要する、特に低い</td> <td>1</td> <td>0～29</td> </tr> </table>		十分満足、特に高い	5	80～100	十分満足	4	65～79	おおむね満足	3	45～64	努力を要する	2	30～44	努力を要する、特に低い	1	0～29									
十分満足、特に高い	5	80～100																													
十分満足	4	65～79																													
おおむね満足	3	45～64																													
努力を要する	2	30～44																													
努力を要する、特に低い	1	0～29																													

政治・経済 授業計画

学習指導計画				実施状況		
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前期	4月 6	第1部 現代日本における政治・経済の諸課題 第1編 現代日本の政治 第1章 民主政治の基本原則	・民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・現代日本の政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者として	1 政治と法 2 民主政治と人権保障の発展 3 国民主権と民主主義の発展 4 世界の政治制度	前期	
	5月 11	第2章 日本国憲法の基本的性格	1 日本国憲法の成立 2 平和主義 3 基本的人権の保障 4 人権の広がり	●考査～P49		
	6月 2 ●考査 9	第3章 日本の政治機構 第4章 現代日本の政治	1 立法 2 行政 3 司法 4 地方自治 1 戦後政治の歩み 2 選挙制度 3 政治参加と世論			
	7月 4	第2編 現代日本の経済 第1章 経済社会の変容	・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。 ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現させる。	1 経済活動の意義 2 経済社会の形成と変容		中期
	8月 4 ●考査	第2章 現代経済のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上	1 市場機構 2 現代の企業 3 国民所得と経済成長 4 金融のしくみ 5 財政のしくみ ●考査～P121			
	9月 10	第3編 現代日本における諸課題の探究	1 経済の停滞と再生 2 日本の中小企業と農業 3 国民の暮らし 4 環境保全と公害防止 5 労使関係と労働条件の改善 6 社会保障の役割	調査・まとめ・発表		
	10月 8	第2部 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治	・国際社会の変遷、人権、国家主権、領土(領海、領空を含む。)などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・現代の国際政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・現代の国際経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現させる。	1 国際政治の特質と国際法 2 国際連合と国際協力 3 現代国際政治の動向 4 核兵器と軍縮 5 国際紛争と難民 6 国際政治と日本		
	11月 4 ●考査 5	第2章 現代の国際経済	1 商品・資本の流れと国際収支 2 国際経済体制の変化 3 グローバル化と世界金融 4 地域経済統合と新興国の台頭 5 地球環境とエネルギー 6 経済協力と人間開発の課題	調査・まとめ・発表		
	12月 9	第3章 国際社会の諸課題の探究	調査・まとめ・発表	●考査～P233		
	1月 7		調査・まとめ・発表	●考査～P233		後期
2月 3 ●考査 5						
3月 4						